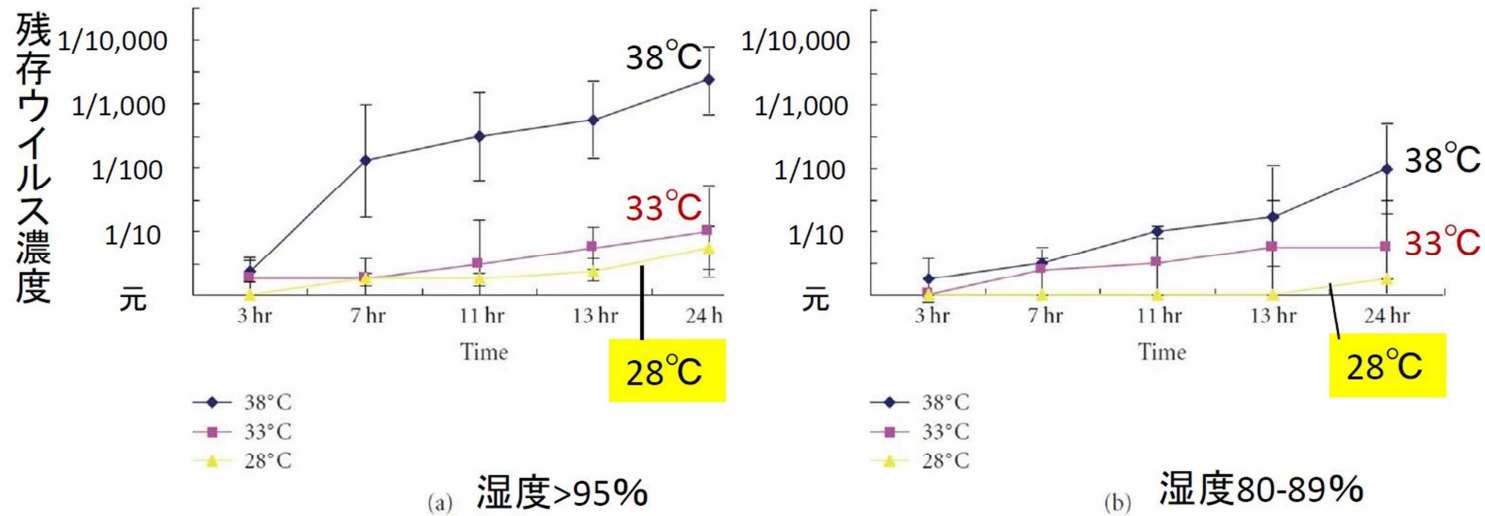


別紙資料 2

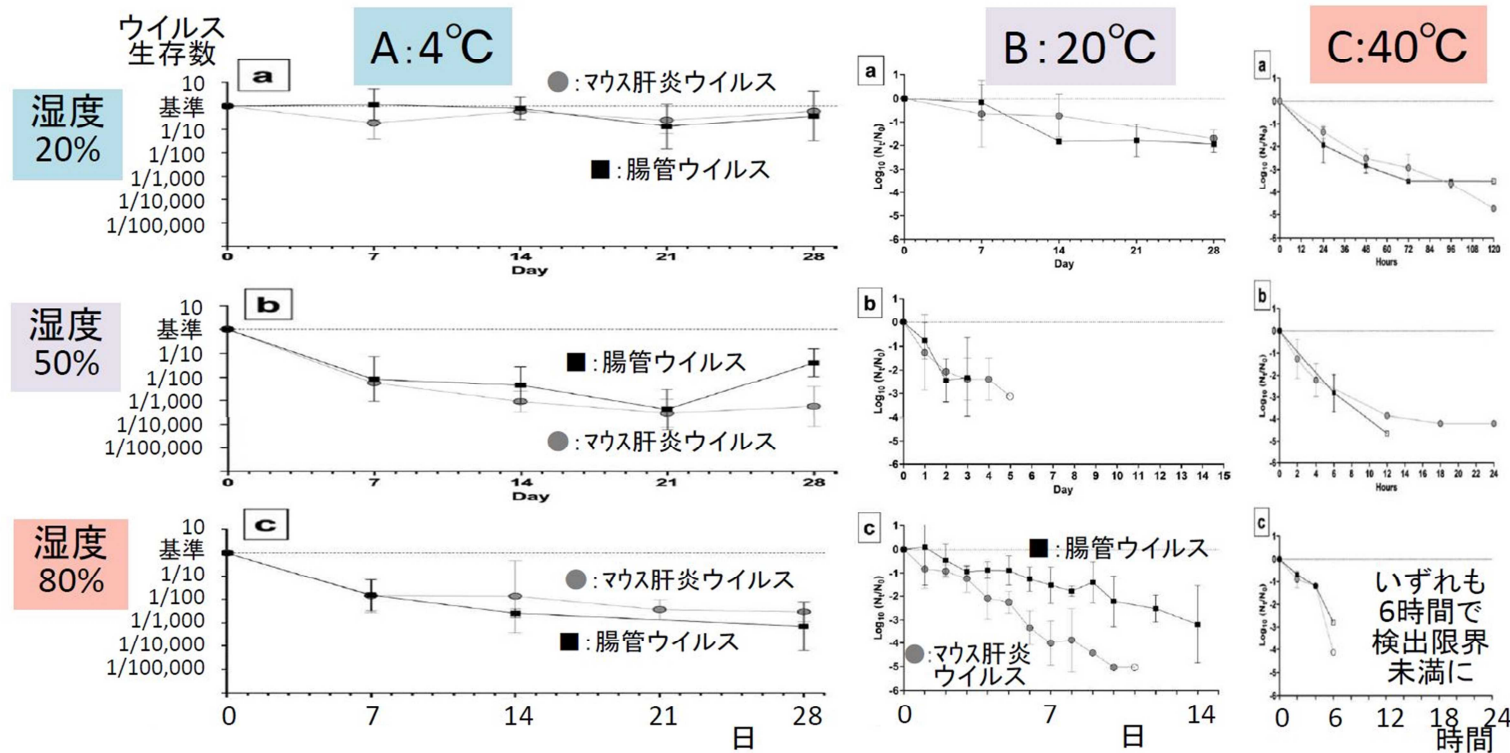
図 2-2 : SARS コロナウイルスの温度と湿度による死亡速度の違い



Chan Kh et al. Adv Virol 2011;734690 [3]より

湿度 95%超で 28°Cでは 24 時間後には元のウイルス濃度の数分の 1、33°Cでは約 10 分の 1 に過ぎないが、38°Cでは 24 時間後に約 5000 分の 1 (0.02%) に減少する (左図)。湿度が低いと (80-89%)、減少速度が鈍る (右図)。

図 2-3 : SARS コロナウイルスの代理としての腸管ウイルスなどの温度と湿度による死亡速度の違い



Casanova LM et al. Appl Environ Microbiol 2010; 76::2712-7[4]より

A と B の横軸は同じスケール、C 図では、A や B の 10 倍に引き伸ばしてあるので注意、A, B 図で表すとこの 1/10 である。

4°C、湿度 20%では、どちらのウイルスも、ほとんど死なずに生き続け、20°Cでは、湿度 80%でも、ウイルス消失に 10 日以上かかる。しかし、40°Cでは、湿度 50%でも約 12 時間でほとんど消失し、湿度 80%では 6 時間以内に検出限界以下に消失する。いかに高熱が、ウイルスの消失に有効かがわかる。コロナウイルスもほとんど同じであった (本文図 2 参照)。

人は、40~41°Cには十分に耐えることができる。発熱したときに、決して解熱剤を使ってはいけない。